





モンスター娘たち
TS



「さて、今日も稼ぎますか？」
俺は、冒険者。
日々、モンスター討伐をして生計を立てている。



「手軽に稼げるやつがいると助かるんだけどな」
「この辺とかにいないかな」



「くー」
「おわあー」
女ーいーや……
こいつはムーピーかー？

かき



ここで水浴びでもしてたんだな…

こいつはそれなりの額だ

羽は結構なマニアやコレクターがいるし

装飾にも使われる…


今日はこいつを…

「ああああ」



それにしてもモンスターのくせに
なかなかいい身体をしている…
狩るのは簡単だが、最近ちよつと溜まってたからな
こいつで発散も悪くないかもな

「あの……？人間？」
「あの……？」



モンスターを襲つても問題ない
こいつらに人権なんてないんだから
それにモンスター退治は名誉なことだ…
手段なんてどうでもいい



「えー？なんでスポン脱いでるんですか！？」

「もしかして、あなたも水浴びですか？」

「…そうですね」

「あの…私…もう出るでー」

「そんな」と言わずに…」

「一緒に…どうです？」

「えっ…」

カクカク

ガクガク

↑↓↓…



「わあっ—？」

「何するんですか—？」

「はあ…「めんなさいね？」

「こんないい身体してるのが悪いんだよ？」

「や、やめて—」



「ああ！暴れるなよ！」

「ちよつと気持ちよくなるだけだからさ」

「終わったらすぐに楽にしてあげるよ！」

「は、離して！」

モンスターのかせにいい匂いさせてるな

これは当たり前かもな



「やめてーやめてよー!」

「モンスターも交尾は好きだろ?」

「俺とやるうぜ?」

「気持ちよくしてあげるよ」

「やだーやだー!」



「はああ!」

「うお...やばっ」

「モンスターま●こ気持ちいい!」

「めっちゃあつたけ...」

「入れないで!やめてよ!」

びくっ

ドキ

ちゅ

ドキ



「おお……ああ……」

「あつ……はあつ……」

トロトロで超気持ちいい……

こんな人間じゃ味わえないかもな……

「はあ……はあ……」

いっしょ

いっしょ

いっしょ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ



「ああ……気持ちいい……」
「はあ……あつ……」
「なんで……こんなこと……」
「やば……上がってきた……」
「出る……」



「中に出すからな？」
「えー？ダメだよ！やめて！」
「大丈夫だよ！人間の精子が入ったとこで」
「モンスターは妊娠しないからよ！」
「よし！出る！出るぞ！」
「やだーやだー！」

ぢゅっ...

ぢゅっ...

ぢゅっ...

ぢゅっ...



「あつーああー」
「うっーっいやあー」
「気持ちいいー」
「中出しは最高だな」

ムム

ぐぐぐ
ちんぽ
んんん

びんぽ

んんん

んんん



「はあ……ふう……」

「出た出た」

「最近やってなかったからスッキリしたぜ」

「う……う……」

ドキ

びく

びく

びく

ドキ

ドキ

あめ

びく

「気持ちよかったよ」
「サンキューな？」
「ははは…はははは…」





「さて…スッキリしたし」

「次は…」

「あれ？剣はどこだっけ…？」

「？」

「ああ……あつたあつた」

「あれ？」

「嘘！？逃げた！？」

「マジかよ！？」「瞬目離した隙に……」

「油断した……せつかく金になるやつだったの……」

「バカマ」



「ああ〜!」
「おっどうした!?!」
「人間にいじめられた!」
「え?」
「無理やり交尾させられた!」
「いやだったのに!」



「なんじゃこー」
「かわいそんじょー」
「もう大丈夫だよ...」
「よんじまで逃げて来たね」
「偉いわね」



「私…あの人間に復讐したい…」

「同じ目に合わせたい！」

「そうね…」

「人間の顔どかは覚えてる？」

「えっうん！」



「なら…私に任せて。」

「仕返ししてあげる」

「本当に!？」

「ええ…あなたをこんなひどい目に合わせたんですもの」

「許せないわ」



「それにはハーピーの力も必要だけど」
「大丈夫？」

「うん！大丈夫！」

「あの人間に復讐できるなら！」

「私！頑張る！」

「ありがとう……」

「それじゃ……やりますよっ！」



「たくさん」に行きやがった？」

「おーん」

「あんなだっ」



「お！お前！」

「へ…人間！」

「さつきはよくもやつてくれたな！」

「なんだ？仕返しにでも来たのか？」

「なら都合がいい！」

「こっちもお前を探してたからな！」



「へーそう上手くは行かないよー」
「バカ人間が！」
「こそーこいつ！」
「待てえー！」

「ごちだよー」

「くそーちよこまかと飛び回りやがって！」

絶対に捕まえてやる！

そしたら、次は動けなくなるまで犯してやる！



洞窟？

巣かなんかか？

無闇に突っ込むのはよくないが

ヤツが自由に飛べる空よりは断然マシか

「ここで絶対に捕まえて、犯してやる！」

「できるかな？」



「観念しろー」
「ひひ♡」
「あ？」



「なんだこれ!？」

「ひひ…」

「残念でした♡バカ人間」

「もうお前は終わりだよ♡」

くそ…やっぱり畏だったのか…??

これは…沼?いや、スライム!?



びちゃ

びちゃ

びちゃ

「やあ人間♡」

「よくも私の可愛い友を虐めてくれたね♡」

「ここからは私がお前の相手をしてやるさ♡」

「何!?!はな s……!」

ロに……スライムが!



「騒ぐな騒ぐな♡」

「お前は確か交尾が好きなんだから？」

「思う存分にやろうか？♡」





「あはは♡」
「もうこんなに勃起してるのか♡」
「卑しい雄だな♡」
「おかしい…身体が…」
「興奮なんじゃないの!」



ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

ジュン

「〜」

ち●こが「まるでま●この中にあるような！」

「んん♡うた♡」

「雄は「うんっのが好きなんだろ♡」

「やほら…っれ…」

「くくくくしてるが伝わってんぞ♡」

「気持ちいいの♡」



「ふふ♡苦しそうだな?♡」
「田んつなのか♡♡」
「こんなので…くそ…
やばい…我慢できない…
で、出る…」



「あっ♡あはは♡」

「出てるな♡精子が♡」

「私の中に出ているぞ♡」

「ほら♡もっと出すが♡」

「人間の雄は射精の瞬間が快樂なのであるぞ♡」



「ほら♡ほら♡」
「遠慮せずにどんどん出せ♡」
「やめてくれ…刺激しないでくれ…」
「ほら♡ほら♡」



ぢゅゅゅ

ぢゅゅゅ

ぢゅゅゅ

「んー」

「ふふ♡またイったの♡」

「良いぞ♡良いぞ♡」

「お前はこれがしたくて堪らなかつたのであろうか♡」

「さあ♡もつ♡Hせ♡」

やめ♡んね...



「おい……もう出ないのか？」
「もう満足してしまったのか？」
「残念だ……♡」
「なら次は逆の立場になってみるか……♡」
「逆？」



！？
身体に何か入って……！
熱い！苦しい！
意識が飛ぶ……！！
「んん♡」
「んん♡」



どうなるんだ……俺……



「ゲホ…ゲホ…」
「ふふ♡♡だった♡♡」
「は？何が…？」
「射精は気持ちよかったら？」
「それ…？」

「う、うるさい……」

「お前たちを……討伐してやる……!」

「ふふ♡出来るのか?」

「その身体で?」

「出来るs……!」

あれ……なんか……

いつもと感覚が変な……?



「はあ！？なんだこれ！？」
「ふふ♡気に入ってくれると嬉しいんだけどね♡」
「人間の雌の身体さ♡」



「話に聞くと人間の雌は雄に比べて感度がいろいろいいじゃないか？」
「交尾好きの君にはびったりだと思ってるね♡」
「私の能力で雌にしてあげたよ♡」
「これでもっと楽しめるね♡」
「なに言ってるんだお前！」





「なんで怒るの？」
「嬉しい♡♡♡♡♡」
「さらに気持ちよくなれるんだ♡」
「むしろ感謝して欲しいんだけど♡♡」
「するわけないだろ!?!」

「悲しいな…」

「やらに気持ちいいのよ…」

「あーそうかー」

「まだ実感がないから怒るんだらうな！」

「はー？」

「では早速、その身体に教えてやろう♡」





「うわー!」

「ふふ♡存分に堪能してくれよ?♡」

「私が全力で楽しませてやる?♡」

「離せ!」

「離すわけないだろ?♡」



「うっ……」

「気持ちわり……」

「失礼だね♡」

「それ……気持ちいいに変えてあげるよ♡」

全然抜け出せない……

どきん♡

どきん

どきん

「そんなに動くとどんどん絡まるよ♡」
「又チ又チって君の身体と私が絡み合うよ♡」
「そ…っ!」





「くっ!?!」

「これは...?」

「ふふ♡これから交尾するんだよ?♡」

「交尾の仕方は知ってるでしょ?♡」

まさか...

ん...

ぐんぐん

ん...
ん...
ん...

ん...



「異種同士の交尾じゃ妊娠しないのが残念♡」

「でも、妊娠気にしなずに楽しめるのもアリかもね♡」

「や、やめ……」

「ふふ♡やめないよっ♡」

「君も……あの子の時にやめなかったよね？♡」



「うっ！..くっ..」
「あはは♡どんどん入ってくよ♡」
は、入って...くる...!!
閉めてるのに...隙間から...
どんどん中に...



「ふふ♡抵抗してるつもり?♡」

「私…スライムだから♡」

「ちよっとした隙間があれば入れちゃうよ?♡」

「おま●この割れ目なんて簡単に♡」



「ほら♡たっぷり入ったよ♡」

「無理やり...入れられる感覚はどう?♡」

「気持ちいい?♡気持ちいいよね?♡」

「スライムち●ぽ...気持ちいいよね?♡」

びんびん

はは

びんびん

びんびん

びんびん

はは

びんびん

びんびん



出たり……入ったり……
なんだ……この感覚……
これが……犯される側の……？
「あつ……はあ……」
「だんだん気持ちよくなってきたのかい？♡」



「あの子は……どうだったと思っ♡」
「はあ……ええ♡」
「あの子……ハッピーのことか？」
「それは……気持ちいい♡……」
「間違いだね……あの子は泣いていた」
「これから……仕返」するよ♡」
「ええ♡」

んんん♡

ハハ♡

ハハ♡

ハハ♡

ハハ♡



「うぐっ…?」

急に…股間が…

痛い…! 痛い!

デカくなってるのか!?

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン

ズンズンズンズン



「あぁ♡はぁ...♡」

「...からは...ちよと痛い思いしてもらおう♡」

「無理やりおま○こ広げられる感覚を味わってよ♡」

「いつ...痛い...♡」

「ぬ...抜いて...くれ...」

はぁはぁ

ぐちゃや

はぁはぁ

はぁはぁ

はぁはぁ

はぁはぁ



「あぁっ♡はぁあ……♡」
「ぐちゃぐちゃ」
「ぐちゃぐちゃ」
壊れそう……股が……変になる……
「気持ちいいいっ♡」
「私は気持ちいいいっ♡」

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ



「無理やり犯される感覚...」

「抵抗も出来ずに...ただただ犯される...」

「最高に気持ちいいだろ?」

「お前が彼女にしてみた...」

「存分に味わえ♡」

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ



声にならない...
頭が...回らない...
中...ぐちゃぐちゃ...
さわる事...わがらない...
「気持ちいい♡」
「私、気持ちいい♡」

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ



「ほら？♡気持ちいいかい？♡」
「もつと声を出しなよ？♡」
「交尾は最高に気持ちいい行為だろ？♡」
「人間の雄は交尾が大好きなんだろ？♡」
「あつ...はあつ...」

ぢゅ...
ぢゅ...

ぢゅ...
ぢゅ...

ぢゅ...
ぢゅ...

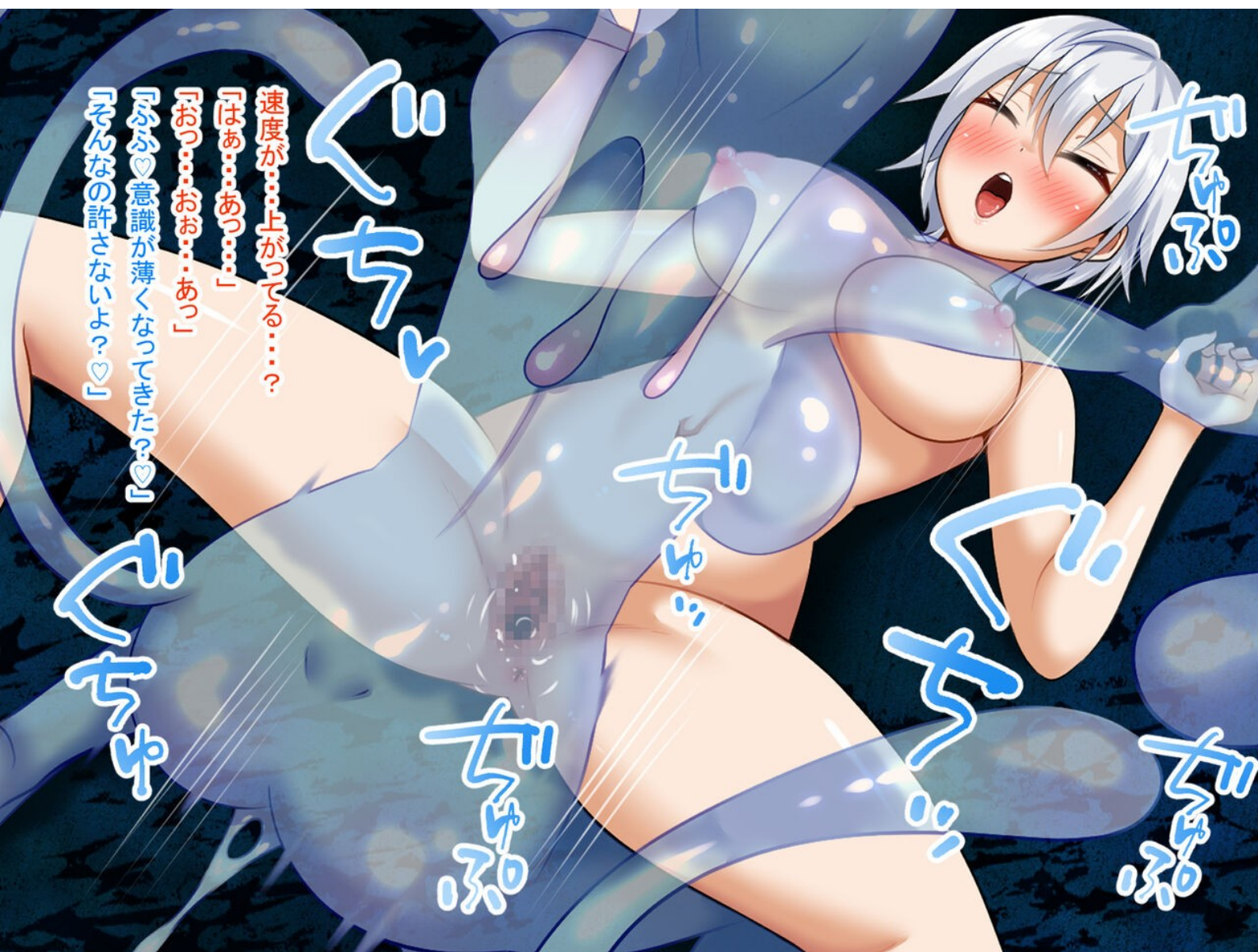
ぢゅ...
ぢゅ...

ぢゅ...
ぢゅ...

ぐちゅ
ぐちゅ



どんだん……
デカく……硬くなってるのがわかる……
俺の……壊されるのか……？
こんな身体にされて……
状況もわからずに……
一方的に……壊される……？



ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

速度が……上がってる……？
「はあ……あつ……」
「おつ……おお……あつ」
「ふふ♡意識が薄くなってきた♡♡」
「そんなの許さないよ？♡♡」



「中に出される感覚もしつかり味わないと♡」

「この身体になった意味ないでしょ?♡」

「ほら♡頑張っで♡」

中に...出される...?」

この身体の中に...?」

ああ...さつきよりも早く...

硬く...大きく...なって...

ビュッ

ゴキョウ

ビュッ

ゴキョウ

ビュッ



「はあ♡気持ちよかった♡」
「ああ♡ふっふっ♡」
「久しぶりだったわ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」

「はあ♡」



「さあ、お前さんの胸を舐めたい♡」
「本当にー♡」
「ええ♡」
「じゃあ、私も犯す側やりたい！」



「あら♡いいね♡」
「ただ始末するのもつまらないもんね」
「うん！私…攻めるの好き！」
「それじゃ…今のうち♡ヤリまじようか♡」



「えい♡」
「うんうん♡」
「なんだ！？顔に何か！」
「はあ♡これどうかな♡♡」

アッ
アッ

アッ
アッ
♡



はぁ♡♡

はぁ♡♡

すま♡

ぢゅ♡♡♡

ぢゅ♡♡♡

「えい♡んっ♡んっ♡」
股間を擦り付けてるのか？
息がしづらい…
口に…何か入ってる…
「はぁ♡あっ♡」



「いつ…俺の顔に擦り付けて感じてるのか…?
 どうぞ…垂れてくる…
 『はあ♡これ気持ちいいな♡』
 『すく濡れちゃうよ♡』
 『んっ♡あんっ♡』

はあ♡♡

くちゅ

くちゅ

はあ♡

はあ♡
 くちゅ



はあ♡♡

チクッ♡

はあ♡♡
♡♡♡

チクッ♡

はあ♡♡

「はああ♡いいな♡」
「腰…止まんない♡」
「可愛い♡こんな動かし♡」
「喘いで♡」
「だって…気持ちいいんだもん♡」



「グリグリするのやめられないよ♡」

「はあ♡はあ♡」

熱い…熱い…

お腹の底が熱くなっていく…

「はあ♡もうイっちゃいなう♡」

すあ♡♡

すずゆ

すずゆ

すずゆ

すあ♡♡

すあ♡



はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

「はああ♡」

「イっちゃった♡」

「顔でイっちゃったね♡」

「うん♡はあ♡」

「イかせてもらったら次はこうするんだっけ♡」

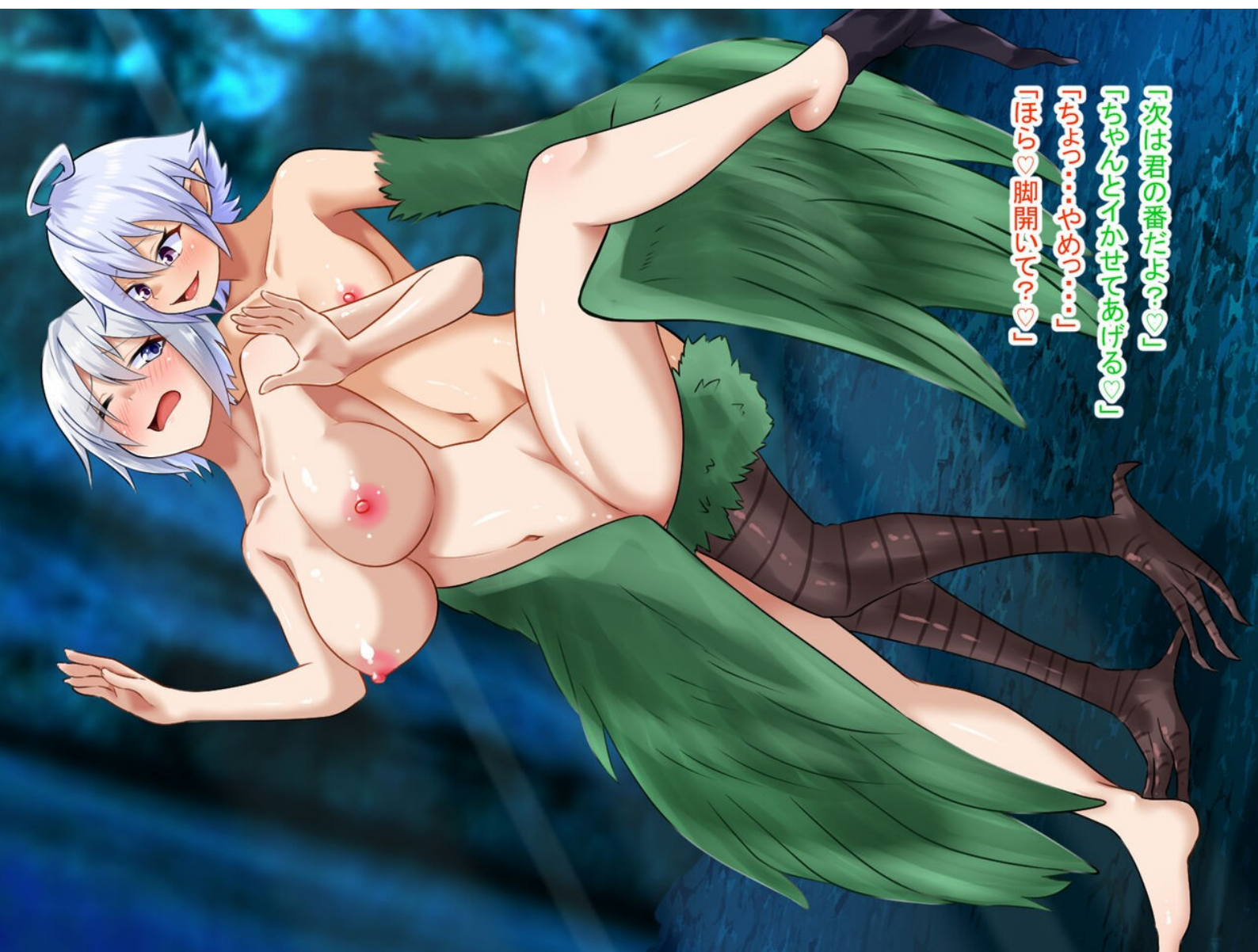
「お礼にイかせてあげる♡」

「正解♡」

はあ♡

はあ♡

はあ♡



「次は君の番だよ?♡」
「ちゃんとイかせてあげる♡」
「ちよつ...やめつ...」
「ほら♡脚開いて?♡」



「あれ？♡なんかもう濡れてるよ♡♡♡
 「ちが……これは……」
 「スライムの……残りじゃないよね？♡」
 「もしかして、私の股で興奮してた？♡」
 「そんな……」

びくんっ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

びくん



「やっぱり人間って雄でも雌でも関係なくエッチなんだ?♡」

「こんな姿にされても興奮しちゃうんだ♡」

「面白♡」

「今度は私が攻めね?♡」

「本当にあの時のハッピーか?」

「全然雰囲気が違う...」



「ここ♡気持ちいいでしょ?♡」
「人間の雌はここに弱いつてスライムが言ってたよ♡」

「ひゅー」

なんだこの感覚……

つま先から頭まで……電気が走るみたいに……

「あっ……はあ……」

びんぽんぽん♡
びんぽん♡

びんぽん♡
びんぽん♡
びんぽん♡



やばい……力が抜けて……
いく……もう、立ってるのが……

「もうどうしたの？」♡

「ふらふらしてきてるよ……♡」

「もう立ってられないの？」♡

「おま●「気持ちくてもう無理？」♡」

ガッ

ズン

ズン

ガッ

「はあ……はあ……」
「もう限界なの??♡」
「もう……やめて……くれ……」
「俺が……悪かった……」



「はあ、つまんないな」
「あの時はあんなに姿勢よかったのに」
「大した事ないんだね」
くそ…身体が元に戻れば…
こんな奴ら…





「そっか...」
「せっかくだから彼女の処へ連れて行ったら?」
「ん?...あゝいいね!」
「え?彼女?誰だ?」
「行ってからのお楽しみ♡」

「暴れられるのも嫌だから...」
「ちよつとだけ気を失つて...♡」
「ん...」



FaceJ



「それじゃ行ってきますー」
「気をつけてね」
「はーん」



あれ……？
俺……どうなってる……
身体が動かない……
なんだか……寒い？
風？
ここは外……？
わからない……





「すぐ着くからね」

着くってどこに？

…そういえば…彼女って言った？

そいつの場所…？

「たくさん可愛がってもらったよ？」

どっなるんだ……？





「ここを超えれば……」

「……」

「よし！到着だよ！」

「それじゃ……行つてらっしやい♡」

「そして……バイバイ♡」

痛……
落とされた……？
こゝは……？
洞窟……？



「くそ……」

「全然、力が入らん……」

「早く村に戻らないと……」

こんな姿で村の人達……驚くよな……



!?!?
「え？」
「今…何か動いた？」
何か…いる？
彼女…?」

ズズ…

ザザ…



「ムーッ」

なんだー？何かに捕まったー？

「あーっ♡」

「うなげっ♡」

誰の声だ……？





「美味しいような人間の雌がいるね♡」
背後から……
こいつが……彼女？」



「ん？」
「おや...」
「こいつは...男だったものか？」
わかるのか？
「あ...スライムのやつか...」



「まあいら♡」

「それもそれで教え甲斐がある……♡」

「お……おい……」

「ん？なんだ？」

「意思の疎通はできる？」

「ここから逃がして……くれないか？」



「ふっ何を言っているっ♡」
「そんなの許可するわけないだろっ♡」
「逃げたければ自力でなんとかしてみろっ♡」
「私はお前を楽しみたい♡」



「せっかく雌の身体になったんだ♡」
「しっかり快樂教えてあげなくてわ〜♡」

どくどく

どくどく

どくどく

どくどく



「びく」

「あはは♡結構敏感かな?♡」

「全身がびくんとってなったよ?♡」

「乳首が弱点なのかな?♡」

びくんと

びくんと

びくんと



「はぁ♡あぁ♡」

ゾクゾクする...

震えが...止まらない...

この舌...やばい...

全身が拘束されて動けないから
避ける事も出来ない...

ぞく...

ぐちゃゅ

ぐちゃゅ

ぐちゃゅ

びくんと...

びくんと



ハハハ

ハハハ

「おっ……おっ」
「なにを言ってるの♡」
「アツアツ田上さんなの♡」

ハハハ

びんびん

びんびん



「ふんふんと勃ってるよ♡」
「へるへる気持ちいいかい♡」
「乳首ってこんなに感じるもんなの？
男の時にはこんなに感じなかった…
やばい…女の身体…
気持ちよすぎるかも…」

はぁ♡

くちゅ

ピクッ

くちゅ

ピクッ

ピクッ

はぁ♡



ドキ 「はあ...はあ...」
「いい感じになってきたかな?♡」
「の...リミア...」

すごく気持ちい...かも...

おっ♡♡

ドキ

おっ♡♡

♡♡

おっ♡♡

ドキ

おっ♡

おっ♡

「熱いな……ふっ……」

「顔……よく見せてっ♡」

「ふふ♡なかなか可愛してもらったんじゃないっ♡」

「結構、好みよっ♡」

「はあ……はあ……」

「そういえば……俺って……」

「どんな姿なんだ……？」

「確かめようが……ないけど……」

ドキ

ドキ

ドキ



「興奮してきたな♡」
「もっと教えたい♡」
「気持ちいい事をたくさん♡」
「君はいい愛玩具になる♡」
気持ちいい……♡♡♡

—すあ—♡♡

ぞく…

—すあ—♡♡

ぞく…

—すあ—♡♡

—すあ—♡♡

—すあ—♡♡





はぁ♡

フリ♡

フリ♡

フリ♡

はぁ♡

はぁ♡

「どうだい?♡」

「私の乳首ももうこんなに勃ってる♡」

「わかるかい?♡」

「うっ…擦りあって…はぁ♡」

「お互いの乳首を感じ合おう♡」

変な感覚…擦れるたびに…
身体が痺れるみたい…



まお

びくんっ

びくんっ

M
びくんっ

♡

まお♡

びくんっ

「はあ♡ああ♡」

「あっ…あんっ…」

「だんだん雌になってきたね♡」

「やはり君は乳首が好きなんだね♡」

「とても可愛いね♡」

まお



「我慢できなくなってきた♡」

「はぁ♡」

「君も…我慢できなくなってきたんじゃないっ♡」

「もっと気持ちよくなりたいでしょっ♡」

「もっと…気持ちよっく…」

「なりたい…」

「…うん」

— おお♡

ぞく…

— おお♡

ドキ

— お♡♡

— おお♡

ドキ

ドキ

— おお♡

ドキ



ズズ...

ゴ...

グ...

ゴ...

「いっになるっ♡」

「余計なことは考えずに...」

「気持ちいい♡」だけ考えよっ♡」

「その方がさらに気持ちいいから♡」

ゴ...



ドキ

当ててる...何か...
鋭いのが...股間に...

ドキ

く
ち
や

ドキ



「入っていくよ……♡」
「じっくり感じてね♡」
「あつ……はあ……んっ」
入ってくる……俺の中に……
長い……のが……



「はぁ♡♡♡」

「ぐちゃぐちゃ♡」

「ぶいぐい♡♡」

「ぶいぐい♡♡」

「あ♡はあ♡」

「抜けていく感じ...気持ちいかも...」

「いい声だ♡」

「そして...また、差し込む♡」

「はぁ♡♡♡」

「ぐちゃ♡」



ざわわわ
びくびく

びくびく

びくびく

ざわわわ
びくびく

「あぁっ♡♡♡」
「随分と雌らしくなった♡」
「このまま交尾を続けようか♡」
「はぁ♡おっ♡♡♡」
「すっ♡これ♡」
「今までの中で...一番気持ちいかも...」





ぐちゃぐちゃ

すっぴん♡♡

すっぴん♡♡

ぐわぐわ

ぐわぐわ

ぐわぐわ

「気持ちいい♡」

「気持ちいよね♡♡」

「交尾って最高だね♡♡」

気持ちいい...気持ちいい...

頭が...おかしくなりそう...

ぐわぐわ



「どんどんどろろま●」なっで〜♡
 「気持ちいいんだね♡嬉しいな〜♡」
 「私も気持ちがいいよ♡」
 「射精ができないのが悲しいが…」
 「それ以上に快樂が大事だよね♡」

ぢゅぽぽぽ

ぢゅぽぽ♡

ぢゅぽぽ

ぽぽぽ

ぢゅぽ

ぽぽぽ

ぢゅぽ

ぽぽ



はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡♡♡

はぁ♡♡

はぁ♡♡♡

「はぁ...はぁ♡」
「気持ちよかったね♡」
「Love♡♡♡」
「素直になっただね♡」



はぁ♡♡

はぁ♡♡

はぁ♡♡

はぁ♡♡

「これからは...私以外にも」
「皆さんの魔物と毎日、交尾しても大丈夫♡♡」
「雄雌関係なく...みんなの欲望の捌け口として♡♡」
【Kc】



「さあ…みんな♡」
「新しい玩具だよ♡」
「たくさん遊んであげようね♡」

ズン…

ニカライ

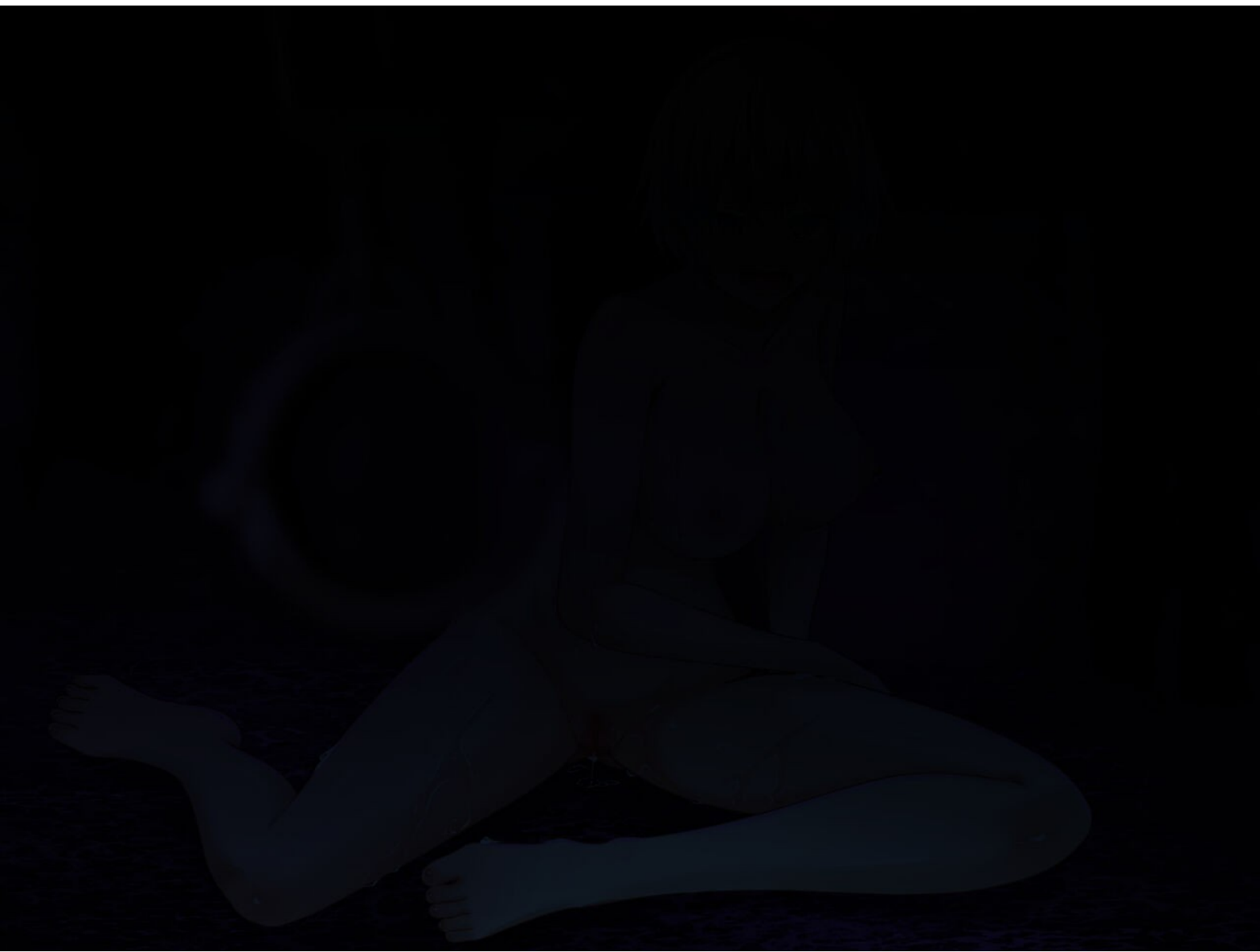
ドキ

ドキ

ズン

ドキ

ドキ





あれからのくらい
日が経ったんだろう……？
もう、今が昼なのか夜なのかもわからない……
来る日も来る日も
俺は魔物達と交尾をしている……



あの時のラムミアとの交尾は確かに
気持ち良かった気がする。
しかし、以降は無理やりな交尾…
気持ち良さなんて感じない…
ただの性処理道具…
いつからか、なにも感じなくなっていた…

時が来れば……
どこかに連れられ……
終わればここに戻される……
その繰り返し……





「今日は俺と頼むわ…」

「おい…お前、昨日もしたろ…」

「今日は俺だ…」

「うるせー早いもの勝ちだから…」

「ふざけるな…」

「誰だっつていい…」































































